

拝啓、会々々今年も終わりで、年々「威嚇のめぐりの加速度的」^{速さ}で
感じる日々です。

三日は重要な読書会の機会をもらっていたことがどうもございました。
二二三、思ったことを述べます。

先ず前提として、フミニズムとは「性差別をなくし、性差別的な搾取や抑圧
をなくす運動」とすることです。私にとって意味があるのは「性ハ女性」だけでなく
「男性である」私にとっても、当事者として関係あることであるということです。
そうではないで、「これは女性の問題」「それは男性の問題」
「ミニソビエ」と流れちゃうので。

次に、内面化されている(男女についての性別)の価値観。これが「キム・ジンセン」
として「私」がどう変化していったかです。

「キム・ジンセン」さんについては、気にした事実を適当に推測するしかありません。
例として十になったこととして、「女性だから勉強しなくてよい」「~~嫁~~嫁に任せ父がまっ
たろ、母が怒ったこと。」「戸主制の廃止等」がわかります。

一ち、変わった点がある問題として、小学生として以降の男性からによるつぎまとい、暴力行為、それらをやむを得ない「男の性」とする価値観。

被害者である主人公が父に慰められたこと。

就婚の困難さ、男女の位銀の格差、結婚に「カスタマーハラスメント」

（女性であるが故の）セクシャルハラスメントが取り上げられることがある。

結婚したのはよいが、仕事との両立が難しく、退職を出産の機にせざるを得なかったことです。改めてその多さに、今まで気付いてないことを痛感しました。

私の男性は、昨年結婚、昨年昨年一子誕生ですが、それで仕事と家庭の

両立が難しく、退職まで考慮せざるを得なかったことは全くありませんでした。またそれが恵まれたことかとは全くその当時は回っておりませんでした。エ

これらの出ま事 ^{でまこと} 外の制度はほとんど変わったにも拘らず、自分の置かれている

状況は余り変わっていないこと。制度や「内面的価値観」といふ自分の置かれている実態との落差が、精神的な病となったのでしう。

また、幼少の時期まで「男女の関係」とはそのようなものと、おきこめ、その中で遅くはまっている。祖母、母のちが抱みは少ないでしう。

「もう私(男)、ミスジニター、異性愛者かつ、人並みで正社員総合職として、

生きてきた私の(男を)についての「内面的価値観」はどうなってる、

六十年代後半(中卒、高専)までは、「男に生まれてよかった」「男女平等というが女は男に比べ、能力そのた社会的視野に於いても劣る。」

女は教職後(二十五歳以上)に結婚するべきだ」という価値観でした。

それを揺るがしたのは、六十年代末の「ウーマニズム運動」、新左翼系のヘルメントを

被る女は違っていた。『政治的には(今でもそうですが)、最中よりやや右寄り、

(「左派」という区分も疑問ですが、こういう表裏しか思いつかないので)。

の私にとって、内面的反響を覚えながら、強い、単なる反響でない影響を

受けてました。

もう一つは「男国士のカルプス」(学生と社会人で結婚までの間の、男性の女性

観に因る和合)を覚えたことです。これはその当時の世間一般の男性のマスコミ

週刊誌、テレビ等を巡っているものです。

多くの女性を「モノに出来る男性」として「頂戴」として「非モテ」「童貞」彼女なし

(若い頃の私がまさにそうでした)、「女性に関心のない男性(ハイ、αセクシャル)

というフニキング付した。

それらの価値観、グループ・メンソスが提起した「女らしさ」への疑問「それが私に『男らしさ』への疑問を感ぜさせました。

男らしさで従事するの、男らしさについて、~~話し~~合うつ、メンソス研究会という会合にもかつて参加してました。

あと、子供が「女権二人」であったことも、いやでも「女権の付、生理」について、そのしんどさを考えざるを得なかったかも知れません。

最後に印象に残った人物は夫である「デビッド」氏です。時代の変化に伴う事象を食めた、女性の意識の変化に、戸惑っている姿です。私そのものでも、P128、P129で、キム・デビッド氏が出版、退職を決めるものの大々ことを説明しても仲々理解できず、~~私~~が通じない場面です。

私としては、単純に夫と悲観出来ません。寧ろ夫の戸惑いに共感します。但しそこから、共感するしないは別として、相手はそう思っているという立場を受取るしかありません。

後は、女性の一般的に置かれている状況を冷静に理解することでしょう。

自分の選かれています 優利な状態を当たり前たとして、気付かないことは、
沢山あります。

かつて私が、結婚、妻の生産、子育てで、「仕事」に殆んど支障がなかった
ことを、「当り前た」と回ったように。

それと経めて、「ママ虫（ママちゃん）」、「過去の伝統的男尊女卑とは違う女性嫌悪の
日本に於ける例として、該妻（23.10.27）人生安楽内を付けておきます。

長々と纏まりのたい手紙でござりますが、感想を終えます。

では次回 23年1月28日「外は夏（立冬）」を楽しみにしております。

二〇二二年十二月四日

田坂龍一

野原 燐 様

敬具

の女性むしより、その女面
 を逆なでする。そして何の
 自覚もなく、「女性だの」「
 女しべ」と公然と口にし、
 内心「養われる者のべ
 せ」とと毎べくする。
 あなたは、どうして、
 彼所や会社、国会にしかか
 いずらん。だかの差別など
 へないから。あなたがたが
 その愚かさを自覚し、世の
 中の見方をがらりと変える
 のではないう。

無自覚な差別は、このの
 悪いものはない。あなた
 自身がその端を担っている
 自覚をもち、持つてほしい
 い。勇気ある薩摩隼人、真
 の「ぼけもん」なら、あ
 なだに、おき
 へて、きく
 べきだ。

相二 ち
 相談 ち
 ちから

（作家）

30代男性。よく日本では、男女不平等と言われます。女性が差別されているというイメージがないのですが、役所や会社で幹部が少ないので、そういった言われるのでしょ
うか？、そもそも働いている女性に偉くない性で差別はあるのでしょ
うか？

私が明らかに差別だと思つたのは、医学部入試の件ですが、女性医師が増えざるゝと、医業士間題が發生した可能性もあり、やむなだったかなと思つます。

私はむしろ女性が羨ましいです。結婚して専業主婦になることもできますし、男性や親に甘えても非難されません。男性は働け、妻子を養えと言われま
す。日本人女性は差別をされてゐるという被害者意識が強すぎるのではないでしょ
うか？

（鹿兒島・上男）

日本は男女不平等…本当？

まゝに立てゐるのだ。
佐吉が、おかしな顔をして、
きつた。その理田は、
いふを聞かぬので、
うう。誰方なぐ櫻十郎が、
「士は俺が極力するから、お前はど
梨春を呼ぶに行へ。それで、
までけり添へてやんが、おとこい
ムを運ばないれ」
その指図したのである。佐吉は、



乗のゐがった船だ、といつてお持ちかゝる
 の中では實に強へ動いてゐる。いづれ
 來事も、立ち合つてしまつたのなら終